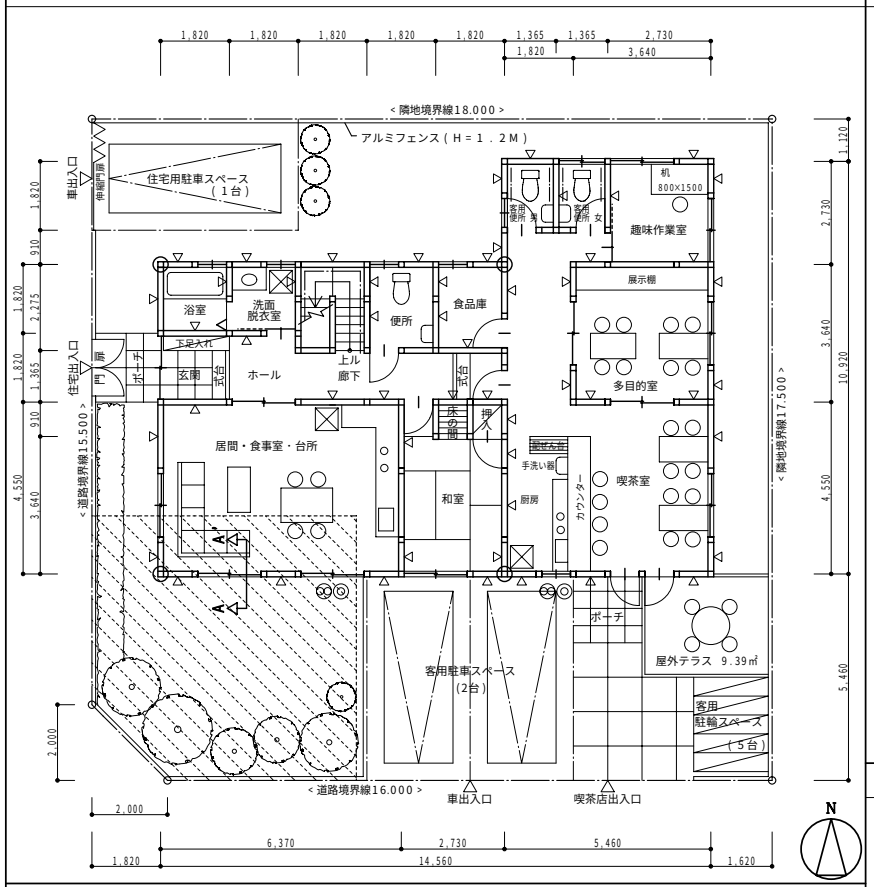
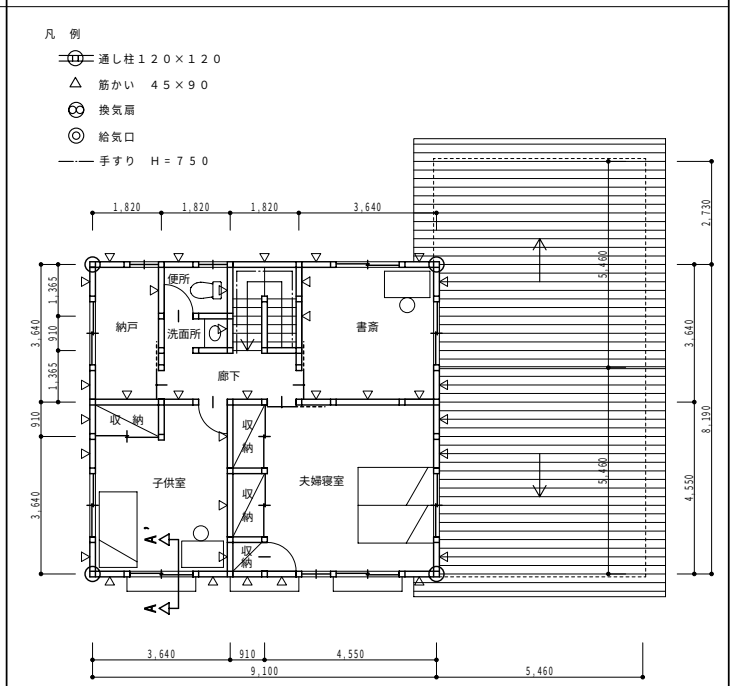
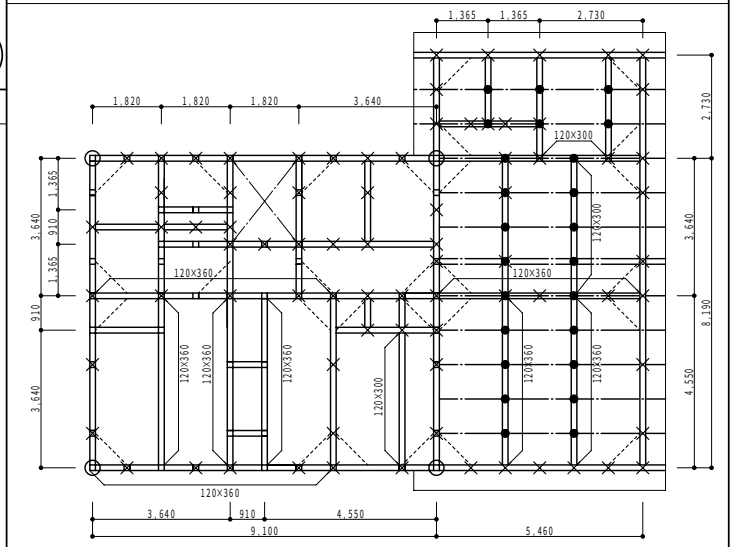
１階平面図兼配置図　縮尺１／１００



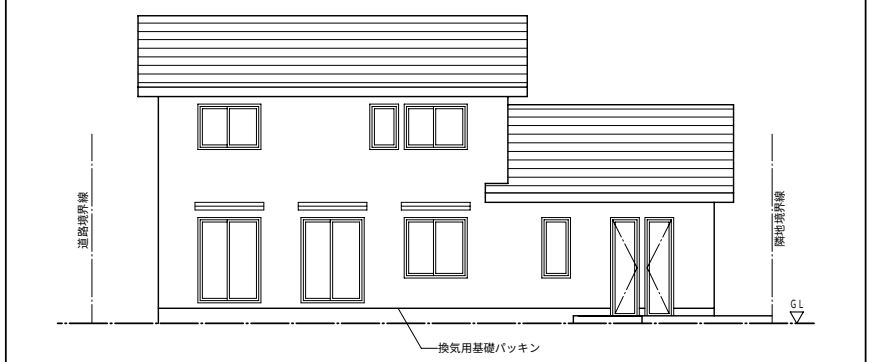
２階平面図　縮尺１／１００



２階床伏図兼１階小屋伏図　縮尺１／１００



北側立面図　縮尺１／１００



面積表					延べ面積
	建築面積	（計算式）	9,100×8,190 - 5,460×10,920	134.15 ㎡	
	１階床面積	（計算式）	9,100×8,190 - 5,460×10,920	134.15 ㎡	
敷地面積 313.00 ㎡	２階床面積	（計算式）	9,100×8,190	74.52 ㎡	208.67 ㎡

凡例	通し柱	１階の管柱	２階の管柱	１階と２階が重なる管柱	胴差・２階床ばり・けた・小屋ばり			火打ばり	棟木・小屋束	もや・小屋束
表示記号					正角材	平角材	丸太材			
断面寸法の記入欄（㎜）	120×120	120×120	120×120		120×120	図中に記入	図中に記入	90×90	棟木 90×90	もや 90×90

平成19年度 本試験 解答例

平成19年 2級建築士設計製図 本試験について

本年度、課題では、作図スピード、木造の構造的な理解、プランニング力、さらに細かい設計条件・特記事項への対応を求められ、非常に難易度の高い問題であった。

H19年の課題の難易度は過去最高レベルとなった。それまではH17年(木造)の課題が最も作図量が多く未作図での不合格者が多かったのだが、H19年はそれを上回ることとなった。また、今回の受験生の解答で多いのが左図ハッチング部分(駐車スペースとして使用不可の箇所)に建物も建ててはいけないと勘違い(非建ぺイ地と思ってしまった)、及び建てて良いかわからないので、安全策として斜線部分に建物を計画しなかった者が半数近くいた。だが、そういう者でも十分合格できる図面を書き上げているので、いかにミスの少ない図面を描けていたかが、合格の基準となったと思われる。

今回の問題はエスキスがまとまりにくかった。その理由に喫茶店部分の所要室の要求面積が、正方形となる面積を求められたこと、外部条件(駐車スペース・非駐車スペース)によって実際建物を計画できるスペースが限られてしまい、敷地に余裕が少なかったことがあげられる。これとは相反して延べ面積は190㎡～230㎡以下と大きめに余裕があったことを考えると、綺麗な矩形でエスキスがまとまらなくても、なんとか各室を計画できたのではないだろうか。

今回の試験について、特に解り難かった箇所・間違えた受験生の多い箇所のみ解説する。

高齢化に備えて、高齢者が使い易い配置・動線 →1階の和室とトイレを近くに配置、また住宅部分の特記事項にある1階の廊下の幅は<心々1,200㎜以上とするというのも高齢者対応の一部と考えられる。

建築物の耐震性を確保 →耐震性は壁量で決まるので、筋カイを入れた壁を多く設計するとよいが、授業でやってきたとおりで問題ない。2階部分外壁廻りの下部に耐力壁が適度に設計されているとさらによい。

交差点付近の斜線部分 →文字通り駐車スペースは計画できないが、建物・駐輪スペース・屋外テラス・門・扉・植栽は計画できる。

趣味作業室の作業用の机 →800㎜×1500㎜の限定である。以上でもなく以下でもない所に注意。

客用便所 →室名を「便所」としないように注意。今回は男女別で各々に洋風便器・手洗い器・手摺が必要。

夫婦寝室 →室名を「夫婦室」としないように注意。

屋外テラス →テーブル(計4席)の意味は、いす4席限定であることに注意。これに対して喫茶室は12席以上となっている。

玄関へのアプローチ →道路から玄関までのスペースにタイル目地や石目地などを書き込む必要がある。

喫茶室の厨房 →配ぜん台・手洗い器が必要。カウンターや調理台の流し部分と区別する。

多目的室 →テーブル・いす・展示棚。

住宅部分の玄関 →下足入れ

上記のようにかなり細かい条件を、いかにとりこぼさないで作図できるかが重要であった。また、２階床伏があり、矩計図も２階建て部分を要求されていることから、非常に作図スピードがないと、作図で手いっぱいとなってしまう。当学院の重要事項チェックができる余裕があれば細かい条件をとりこぼすことはなく、減点の少ない図面となり必ず合格できた。

フリーダイヤル 0120-758-317　名古屋建築資格学院 Nagoya Architecture Designer Qualification Academy